

渋谷の歴史

世

界中の観光客が集まる渋谷のスクランブル交差点は、周囲の坂との高低差が20m。すり鉢状の地の中心にあります。川が台地を削ってつくったこの谷の街では、地下鉄も地中から顔を出し、駅ビルの地上3階に入ります。

この街が近代化しはじめたのは、1885年に渋谷駅ができてから。物流の要所となり、次第に郊外からの通勤客も行き交うようになった1934年、駅と百貨店が一体となった日本初の駅ビル（東横百貨店）が開店しました。日本初のデザイン専門学校

〈桑沢デザイン研究所〉が創立された1954年には、ターミナル・ビルの発展形として、当時日本で一番高いビル（東急会館）もオープンしました。

1964年、東京オリンピックのため国立代々木競技場体育館などモニュメンタルな建築ができて街が整備されると、人の流れも変わります。渋谷PARCOなどファッションビルと劇場、映画館や喫茶店が立ち並び、ストリートから新しいファッションが生まれる文化の発信地へ、街は一気に変貌していきました。

SHIBUYA & HARAJUKU

デザインを学ぶ人のための
渋谷・原宿ガイド

- ① 建築
- ② カルチャー
- ③ 画材／素材／本を買う

桑沢

校

舎を中心に半径1キロのなかに、デザインがすべてが密集しています。街を歩けば、ビジュアル、プロダクト、スペース、ファッションの最前線に触れられます。それらはデザインを学ぶ人にとってのお手本であり、未来のライバルです。同時にさまざまな素材を入手できる、デザインのマーケットといえるでしょう。

2019

1. 建築

競技場・美術館・オフィス
ビル・ターミナル駅etc
建築の実験EXPO

巨 大なすり鉢状の地形の最も低いところに渋谷駅があります。地下には「地宙船」をイメージした東急・東京メトロの渋谷駅があり、人と街と交通を、近未来を思わせる空間で結んでいます。

昭和に入ってから一気に開発が進められた渋谷は、日本で初めてターミナル駅にデパートを併設し、モダンな街へと変貌を遂げました。商業施設やオフィスなど、建築の実験場のように次々と建

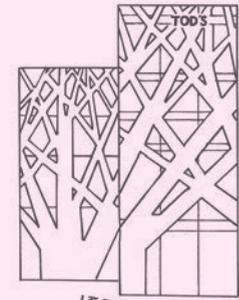
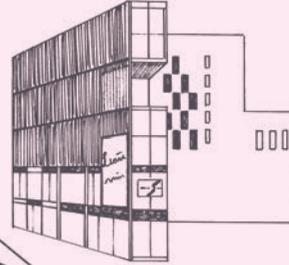
てられていった坂の街では、昭和から最新の建築までを博覧会のように見て歩けます。

〈桑沢デザイン研究所〉の脇には、世界に類のない吊り構造の国立代々木競技場体育館。光を遮断した石造り正面が印象的な渋谷区立松涛美術館。並木と屋上の緑が融合する、東急プラザ表参道原宿。青山通りには、吹き抜ける螺旋空間が中心のスパイラルなど、ファッショントラフィックのデザインを先導する建築がきらめいています。

① One 表参道

表参道のスタート地点、
木立の背景に木の壁が聳える

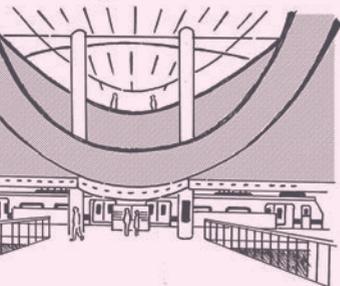
ファサードに取り付けられたカラマツ集成材のルーバーは、隈研吾建築の特徴のひとつ。ケヤキ並木と調和するルーバーは奥行きがあり、見る角度によって建物の表情が変わる。■設計：隈研吾建築都市設計事務所 ■竣工：2003年



⑧ スパイラル

心地良く回遊する、生活と
アートを融合する螺旋空間

広々としたエントランスホールの先にある、円筒形の吹き抜けを巡るように設けられたゆるやかなスロープが、「スパイラル」の由来となった。幕末の蘭学者高野長英の隠れ家跡の碑が、表参道寄りの柱の内部にある。■設計：横総合計画事務所 ■竣工：1985年

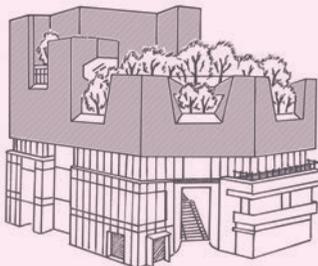


③ 東急プラザ 表参道原宿

緑豊かな天空の森

並木から連続する緑と建築を融合し、屋上には「おもはらの森」を持つ自然共生型の滞在施設。エントランスから3階へと向かうエスカレーターを囲むたくさんの鏡が、まるで万華鏡のように周囲を映し出す。

■設計：NAP建築設計事務所＋竹中工務店 ■竣工：2012年



② TOD'S 表参道ビル

ネットワーク状の構造体が包む有機的なデザイン

表参道のシンボルであるケヤキの幹や枝をイメージしたコンクリートの構造体がユニークな建築。店内も斜めに走る柱に合わせ、不規則な角度で交差するラインでつくられた家具が配置されている。■伊東豊雄建築設計事務所 ■竣工：2004年

④ ディオール表参道

カーテンウォールとアクリルスクリーンの二重構造

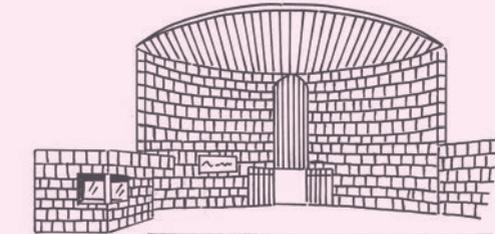
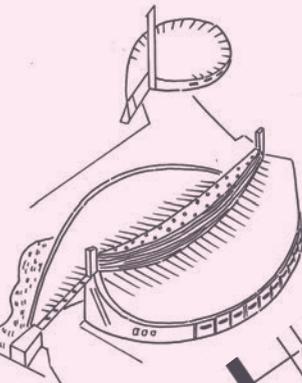
スカートのドレープのようなスクリーンには、白色のストライプ状にセラミックプリントがなされ、各フロアで透明度が異なる。夜にはウォールとスクリーンの間の照明によって、建物全体がゆらゆらと発光しているように見える。■設計：SANAA（妹島和世＋西澤立衛） ■竣工：2003年



⑤ 国立代々木競技場

前代未聞のチャレンジ、史上初の吊り構造

1964年東京オリンピックの会場。選手と観客が競技に熱中して一体感を得られるようにと、柱をなくして屋根を吊り構造にした。ダイナミックで開放感のある造形は、半世紀前のオリンピックのシンボルモニュメントでもある。■設計：丹下都市建築設計 ■竣工：1964年



⑥ 渋谷区立松濤美術館

中庭の噴水に、天窗から自然光がふりそそぐ

白井らが「紅雲石」と名付けた、淡く赤みのさす花崗岩を用いた外壁は、窓を最小限に抑えている。館内にはいたるところに白井オリジナルのオブジェを配置。エレベーターを使わずに、有機的なラインでうねる螺旋階段の空間を堪能したい。■設計：白井晟一研究所 ■竣工：1981年

⑦ 東急・東京メトロ渋谷駅

地下のたまご「地宙船」、地下5階のホームまでを貫く

ダイナミックな吹き抜け構造は、地下30mまで自然風を届け、電車の排熱など暖かい空気を上方に逃がす。「地下深くに浮遊する宇宙船」をイメージした卵形のシェル。ところどころに配置した「卵の殻」は、駅のシンボル。■設計：安藤忠雄建築研究所＋東京急行電鉄＋日建設計＋東急設計コンサルタント ■竣工：2008年6月



2 タワーレコード

世界最大級の音楽ストア

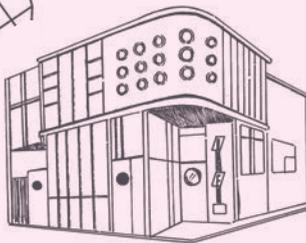
新譜から旧譜まで幅広く取り揃える、オーディオ・ビジュアルソフト専門店。各国の洋書や雑誌・新聞も取り扱い、毎日のようにインストアイベントが開催される。在庫枚数約70万枚を誇る。



1 太田記念美術館

総計1万2千点を超える
大規模浮世絵コレクション

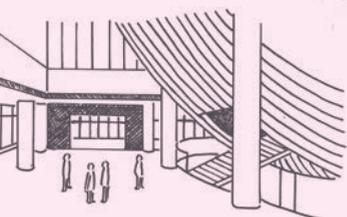
北斎、歌麿、広重、国芳、春信ら、錚々たる浮世絵師たちの肉筆浮世絵、浮世絵版画、版本及び骨董品、扇面画など質の高いコレクションを誇る。館内にある畳敷きの座敷では、床の間で観賞するように膝を落とし、そこに飾られた肉筆画を見ることができる。



8 イメージフォーラム

座席からスクリーンに対する
視野角は最高クラス

アート系の新作ロードショー、気鋭監督作品によるレイトショー、企画上映など、独自のラインナップが魅力。海外の美術館で上映されるような尖鋭的なアート作品や、アヴァンギャルド映像の古典にも出会う。



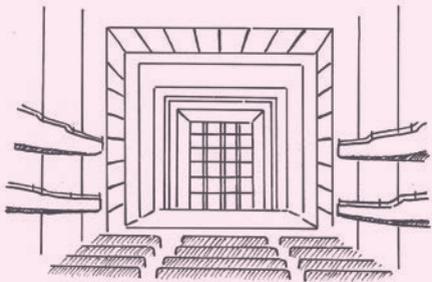
2. カルチャー

メディア・アートから
古美術まで
時代とジャンルを超える
文化の街

スクランブル交差点をかこむ巨大スクリーン、通行人を圧倒する岡本太郎の壁画「明日の神話」が迎える渋谷の街。少し歩けば、古典から最先端の美術・映画まで鑑賞可能です。かつて寺山修司が天井桟敷を開き、渋谷PARCOが熱くした文化の発信地の熱風はいまも吹き続けています。

古美術では、膨大な浮世絵コレクションを所蔵する太田記念美術館。戸栗美術館では伊万里焼や

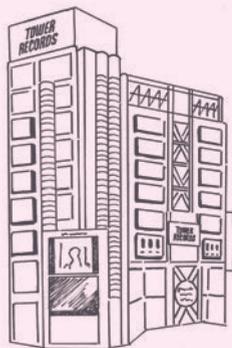
中国・朝鮮の陶磁器を鑑賞できます。美術館・映画館・劇場を備えるBunkamuraでは、話題の展覧会や公演が目白押し。映画館・イメージフォーラムやユーロスぺースでは、気鋭の監督作品から古典の名作、海外作品やドキュメンタリー映画など多彩な企画上映によって、映像の感性を磨くことができます。渋谷ヒカリエでは、各地のものづくりやデザインを紹介するd47などで、地域に特化した斬新な取り組みに出会えます。



3 Bunkamura

渋谷の文化発信地

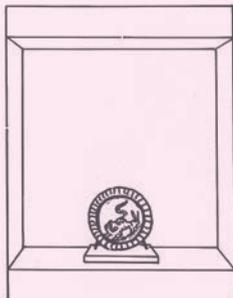
重厚な音響効果のオーチャードホール、三層のサイドバルコニー席が舞台との一体感を生み出すシアターコクーン、独特の上映作品を選定しているル・シネマ、主に19～20世紀の西洋絵画展、海外美術館の名品展、女性芸術家の作品展、写真展の4つのテーマを中心に、年間4～6回の企画展を開催するBunkamuraザ・ミュージアムなど。



4 戸栗美術館

旧鍋島藩屋敷跡に佇む 陶磁器専門の美術館

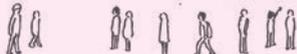
伊万里、鍋島などの肥前磁器および中国・朝鮮などの東洋陶磁を主体として約7千点を所蔵。年4回の企画展を開催している。学生アートサークルという制度があり、2500円の年会費で貸し切り観賞や特別講座などの特典を受けられる。



5 ユーロスペース

ここでしか観られない 映画がある

国籍やジャンルを問わず、埋もれた作家や作品を一貫して紹介。時には上映した作品が社会現象を引き起こす。「知られざるなにか」に出会えるスリリングなミニシアター。同じ建物にある名画座「シネマヴェール渋谷」と、2館共通の会員制度を設けている。



6 壁画『明日の神話』

破壊と再生をテーマにした作品の数奇な運命

『太陽の塔』と対をなす、岡本太郎によるパブリックアートの代表作。水爆の炸裂の瞬間をモチーフとし、悲惨な体験を乗り越えて再生する人々のたくましさを描いている。1968年にメキシコで製作されたのち長年行方不明となっていたが、2003年に資材置き場で発見。日本に帰還後修復を経て、2008年10月から渋谷マークシティの連絡通路に恒久設置された。



7 渋谷ヒカリエ

商業施設、飲食店、 文化施設などからなる複合施設

クリエイティブスペースB/では、さまざまなイベントや展覧会が行われ、d47においてはデザイン、工芸、食、ファッションなどのテーマで、日本の今を紹介。また47都道府県の日本のクラフトや物産を、つくり手自身とその想いを紹介しながら販売するショップも併設している。



3.

画材・素材・本を買う

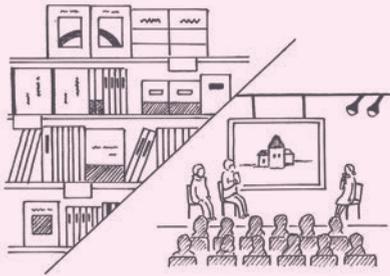
つくる材料と
ヒントにあふれる街

大学や専門学校が集まる渋谷・原宿には、インテリアやファッションを学び、自分らしく楽しみたい人が集まります。アイデアを形にするためには、適した素材や道具を選び、効果的に使うことが必要。選択肢は豊富に欲しいけど、選ぶためのガイドも欲しい。そんなワガママをかなえてくれる店も多くあります。

老舗の画材屋・ウエマツ、豊富な生地を扱うT O A 渋谷、革素材と加工の専門店・エルシブヤ。

日本にDIYの流れをつくった東急ハンズは、道具やパッカージデザインの実例が百花繚乱です。インテリア・グッズなど暮らしのデザインとそのトレンドを発信する渋谷ロフトは、見て歩くだけで創作のヒントに出会えるでしょう。

雑誌や本で知識を深めたい時は、青山ブックセンターやNADIF modernへ。他にも、個人的な古着屋やショップなど、店主のセンスに刺激される空間が数多く潜んでいます。



① 青山ブックセンター本店【書籍】

広々とした店内でゆったり本選び

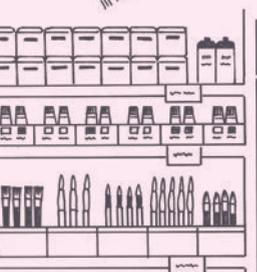
デザイン・広告・写真・アート・建築などクリエイティブ系の書籍と、料理やインテリアなどのライフスタイル書が充実。イラストレーターになりたい人のための「イラストレーション青山塾」も開講している。



⑧ エルシブヤ【皮革】

革細工・革工芸・革製品・作製の専門店

牛革をはじめとして豚革・ヤンビー(羊)・ゴート(山羊)・ディアスキン(鹿革)・カンガルー・馬革・爬虫類等あらゆる種類の皮革を提供。また、皮革手工芸材料を豊富に取り揃えている。



③ 東急ハンズ渋谷店

【素材・材料】

素材のデパートで、材料と一緒に「ヒント」をお持ち帰り

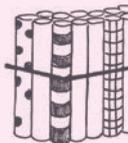
工芸用道具類や金属材料・樹脂材料など、特定業界向けの工具や素材・材料類が揃っており、それらの使用方法や応用に精通する店員が、詳細に案内・実演する。必要なものを買って行つて別のものに会う「発見買い」や、その出会いが新たな制作意欲を刺激することもある。



② TOA 渋谷店【布地】

個性的な生地が
格安で買える

服地からインテリア地まで幅広い品揃えが自慢。また、スパンコール、シルク、ラメ、フリンジ、チロリアンテープ、ビーズなどの服飾小物も豊富に取り扱っている。店頭のワゴンでは掘り出し物を激安で見つけられることも。

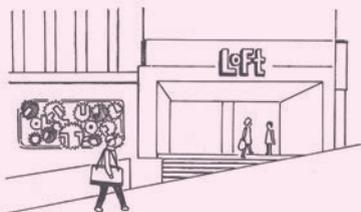


④ NADiff modern

【書籍】

落ち着いた空間で
本と戯れる

20世紀の美術書を中心に、写真、映画、演劇、音楽、建築など、和洋のラインナップが充実。アーティストグッズや輸入雑貨などを物色するのも楽しい。CDやDVDのコーナーにはマニアックな現代音楽や電子音楽が置かれている。



⑤ 渋谷ロフト【雑貨】

渋谷のトレンドリーダー

文具、コスメ、ファッション、インテリアなどの生活雑貨専門店。「ART & DESIGN」をテーマとし、今欲しいモノに加え、「デザイン＝生活の中に取り込むべき、少し上質な暮らしを提案できるもの」を提供する。インポートグッズも取り扱っている。



⑥ 伊東屋 渋谷店【文房具】

銀座線降車ホーム目の前という、便利な立地

伝統に立脚しつつも革新性を忘れないバランス感覚が、品揃えにも反映されている。各メーカーの新製品や便利グッズが並び、銀座本店のような規模はないが、コンパクトな店構えならではの買いやすさがある。

⑦ ウエマツ【絵画材料と額縁】

渋谷の老舗としての豊富な品揃え

1階が日本画の画材、2階が洋画や紙材と、絵画表現のための素材が店内にぎっしりとひしめいている。気になる商品があれば、経験豊かなスタッフが親切丁寧に教えてくれる。オリジナルの糊材など、この店だけで買えるものも。

